

東南アジアの自然と農業研究会

第 93 回研究会のご案内

皆様いかがお過ごしでしょうか。第 93 回定例研究会を開催いたします。今回は、京都大学農学研究科の 関 良基 氏に下記の内容のように報告していただきます。年度末のお忙しい時期かと存じますが、皆様の多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日 時： 12月17日(金)午後4時～午後6時
会 場： 東南アジア研究センター 東棟2階第1教室
京都市左京区吉田下阿達町 46
川端通り荒神橋東詰め
話題提供者： 関 良基 氏
話 題： 「フィリピンの商業伐採跡地をめぐる土地・資源問題
政府の森林管理戦略と山地住民の生存戦略」

～要旨～

フィリピンのフタバガキ天然林における商業伐採活動は、90年代にほぼ終焉し、残された伐採跡地林野をどのようにして管理するのが、林政上の大きな問題となっている。これまで政府は、強制力を行使してでも住民の林野利用を排除しようという姿勢で臨み、政府と住民の間には深刻な対立が存在してきた。しかし、商業伐採跡地の資源枯渇が進む中で、林政は大きく転換し、山地住民は、荒廃した林野を管理・再生する担い手として位置づけられるようになった。近年では、「村落を基盤とする森林管理戦略」が「持続的な林業と社会的公正を実現するための国家戦略」とまで位置づけられている。はたして、土地と資源をめぐるこれまでの対立構造は解消へむかうのだろうか。

本報告では、ルソン島イサベラ州の伐採跡地村落を事例に、林政と住民との相互作用を分析し、引き続き諸問題を浮き彫りにするとともに、今後の林政のあり方を展望する。

問い合わせ先：

富田晋介 京都大学農学研究科地域環境科学専攻

Tel. 075-753-6352 E-mail: tomita@kais.kyoto-u.ac.jp

田中耕司 京都大学東南アジア研究センター

Tel. 075-753-7307 E-mail: kktanaka@cseas.kyoto-u.ac.jp